

心肺蘇生法 - BLSからACLSまで -

講師：国立循環器病センター看護部

小児担当：田村 有希 大神 陽子

成人担当：松浦ゆきみ 西島 和美

尾上 純子 吉田 活子

最近まで、心肺停止に対して標準的な蘇生法がなく、個々の病院でそれぞれの心肺蘇生法が行われてきた。しかし、2000年に米国心臓協会AHAによって、多施設でのデータを基にしたエビデンスに基づいた心肺蘇生法が発表され、国際的なガイドラインとして普及してきた。

このガイドラインは、Basic Life Support (BLS) と Advanced Cardiovascular Life Support (ACLS) の2つに分けられる。BLSは、人工呼吸や心臓マッサージなど、特殊な器具や薬剤を用いない蘇生法であり、ACLSは除細動器や気管挿管、薬剤などを用いた蘇生法で、BLSによって呼吸や脈拍が確認されない場合に行われる。ACLSは、医師と看護師数名のチームで行う蘇生法であり、迅速な蘇生術の実施には全員が同じ手技を習得している必要がある。

特に最近では、看護師がACLSを習得することにより、チームのコミュニケーションが円滑になり、次に行うべき手技の準備や医師の手技の確認という役割が期待されている。この実演交流会では、この世界標準の救急蘇生法を成人と小児に分かれて、体験し習得することを目的としている。